

新型肺炎疑い 邦人死亡

武漢で入院の60代男性

【北京共同】日本外務省は8日、重い肺炎を発症して中国の湖北省武漢市で入院していた60代の日本人男性が死亡したと発表した。男性は新型コロナウイルス感染の可能性が高く、新型肺炎の疑いで日本人が死亡したのは初めて。

外務省は、男性のプ
ライバシーを守るた
め、死亡日時など詳細
は発表できないとして
いる。

政府筋によると、男
性は同市に滞在してい
た1月16日に発熱、同
月22日に入院した。在
中国日本大使館は23

日、男性が重い肺炎に
かかっていると発表。
日本政府によると、28
日時点で病院側から新
型ウイルス陽性の疑い
が強いと連絡があった
が、男性の病状から再
検査による確定は困難
な状態になっていた。

日本政府は29日から
2月7日にかけて武漢
市からチャーター機で
日本人や配偶者を帰国
させた。

中国当局によると、
今月8日までの中国本
土での死者は722
人、感染者は累計で3
万4546人に上って
いる。

中国湖北省武漢市の当局が昨
年末、市内で原因不明の肺炎患者が相次いでいると
発表。感染者の大半が動物も扱う海鮮市場を訪れて
いた。中国メディアは1月9日、患者から新型のコ
ロナウイルスが確認されたと報道、世界保健機関(W
HO)も14日に認定した。重症急性呼吸器症候群(S
ARS)や中東呼吸器症候群(MERS)を引き起
こす種類とは異なる。人から人への感染が認められ、
中国全土や日本、米国、韓国など世界各地で感染者
が確認された。(共同)



中国武漢の病院で、防護服姿で作業する医療関係者ら。7日(新華社・共同)